

事後評価報告書

(日本-台湾研究交流「セキュアでディペンダブルな IoT ポータブル
デバイスのための研究」)

1. 研究課題名：

「モバイルヘルスケアにおけるプライバシー保護ビッグデータマイニングを実現するセキュア IoT 情報基盤」

2. 研究代表者名：

日本側： 明治大学 総合数理学部 専任教授 菊池 浩明

相手側： 国立中山大学 資訊工程学系 教授 范 俊逸

3. 総合評価： B

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

本研究交流は、ヘルスケア情報を秘匿したプライバシー保護データマイニングを可能にするセキュア IoT 情報基盤を目指すものであり、モバイルヘルスケアを実現するための IoT デバイス向けの軽量暗号系、プライバシー保護データマイニング基盤技術とヘルスケアシステムのための情報基盤に関する研究成果が 2 件のジャーナル論文を含む 9 件の国際共著論文において発表されている点が評価できる。しかし、当初の計画で予定されていたソフトウェア等のオープンソース化が達成できなかった点は残念である。

また、日本側のプライバシー保護技術と台湾側の認証・暗号スキームの構築といった協働で日台相互の得意分野が連携し、国際会議 Mobiquitous2016 にてモバイル IoT セキュリティに関する国際ワークショップを共同で開催した点も評価できる。

研究成果が主として学術的成果にとどまっており、今後の製品化やその他の進展が期待される。また、関連企業などとの交流も視野にいれるべきであったと考えられる。

(2) 交流成果の評価について

人材育成の観点では、計 6 回の共同ワークショップなどを通じて、数名の大学院生が大学や研究機関で研究職についている点は評価できる。

協働関係の観点では、日本で 3 回、台湾で 3 回、計 6 回の共同ワークショップ

ブを開催した点が評価できる。

また、第 5 回目のワークショッププログラムだけでなく、研究成果の進捗を共有する上でも、他のワークショップのプログラムなども web で記録されることを期待する。

(3) その他

なし

以上